

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270201296		
法人名	社会福祉法人 緑風会		
事業所名	グループホーム 太陽の里		
所在地	〒036-8112青森県弘前市大字堀越字柳田3-12		
自己評価作成日	令和2年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和3年3月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

行事の中で季節感を感じてもらい、楽しみがある生活を支援している。又、夏祭りや誕生会など、家族も一緒に参加できる行事も開催し、家族と共に利用者を支え合えるよう努めています。ただ、令和2年度はコロナ禍により外部の行事は中止となりました。食事の下拵えや掃除、趣味活動など何事に於いても利用者と一緒に、家庭の延長にある雰囲気作りに努めている。又、花を多く育てたり、菜園活動を行い育てる楽しみをもてるよう支援している。又、脳トレやリハビリなどは 楽しく行えるようなメニューにし利用者の意欲向上が図れるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

建物は幹線道路から少し離れた住宅街に位置し、通所介護事業所が隣接している。今年度は感染症対策で楽しみにしていた夏祭りや外出行事への参加ができなかったことで、事業所内の楽しみとして天気の良い日はドライブに行ったり、食事の充実など頑張っている印象がある。事業所には理学療法士・作業療法士を含む職員全員で利用者の特性や好きなことを見出して、日常の中で生活リハビリとして介護計画や目標を設定し、実際に機能向上された方もいるという。職員の研修参加を推奨し、日ごろの勉強の成果が利用者の笑顔につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念と事業所の理念は、毎朝復唱している。理念は、地域・家族・利用者とのつながりを意識した理念となっている。又、会議やミーティング時に理念の大切さを話し、実践できるよう努めている。	法人の理念「感謝、思いやり、自己実現、信頼、尊重、協働」を基にした事業所の理念があり、職員はその内容を皆で唱和することで周知し、理解できている。理念に沿ったケアを行い、利用者の安寧な生活につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校の運動会へ参加したり、隣接のデイサービス利用者と交流している。運営推進会議や夏まつりへは、町会長・地域消防団・民生委員へ参加を呼びかけ交流を図っている。	今年度は地域の方と一緒に墓地の草取り作業に参加した。感染症対策であまり活動はできていないが、地域に事業所の便りを毎月発信し、菜園のボランティアを募集したりと活動は継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、利用者家族や地域の関係者を対象に認知症の勉強会を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回開催している。(令和2年度はコロナ禍により開催していない) 利用者家族・町会長・消防団・民生委員・市職員・職員が参加し日頃の状況や取り組み内容・評価の改善点を報告している。出された意見を参考にしながらサービス向上に努めている。	感染症対策で会議は実施していないが、地区の民生委員、町内会、地域包括支援センターに事業所の活動や利用者の状況について資料を送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入所者・待機者状況を報告している。運営推進会議へ出席の呼びかけをすると共に、必要時は電話やメールで連絡している。会議に参加されない場合は報告書を提出し状況を伝えている。	利用者や入居待機者の状況を市役所にメールで報告している。事業の運営についてもメールでやり取りし、感染症や事故報告についても迷ったらずぐに市役所の担当者に相談して対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内の会議で「身体拘束」について勉強会を実施し、理解を深めている。日々の中でも玄関に施錠をしないようにし、言葉でも拘束をしないケアに努めている。	ケアに関することは事業所の勉強会の年間計画があり、職員は拘束について理解している。転倒予防のコールマットを使用している利用者に関して、その必要性について毎月検討し話し合いが行われている。スピーチロックについてもケアの振り返りを行い、相談し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の会議で「虐待」について勉強会を実施し、理解を深め虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、活用している利用者はいないが運営推進会議で地域包括支援センターの職員と情報交換できる環境に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族へは、契約前に重要事項の説明を行い、不安や疑問点は時間をかけて話し、同意を得た上で契約・解約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で何でも言える雰囲気作りをし、運営推進会議は全家族に案内を出している。参加されない家族からは面会時に意見を聞いている。玄関に苦情意見箱を設置し、家族からの意見の吸い上げを行うようにしている。	取り組みを理解してもらえるように、毎月家族に活動等の写真入りの便りを送付している。家族来所時や連絡時に家族からの意見をいただけるように声を続け、いただいた意見は職員で検討し対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	新年度事業計画を作成する際、職員の意見を聞き反映している。	事業計画策定前に職員の意見を書面で提出してもらい、目標を設定している。目標達成のために取り組みの状況を毎月チェックし書面で確認している。また適宜出された意見は会議で周知し検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の努力や実績は、人事考課で把握し賞与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課等で職員一人ひとりと面談を行い状況を把握している。法人内の研修や月1回、事業所内会議で勉強会を行ったり、法人外の研修に参加できるようにし、資質高上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修や他研修に参加し、ネットワーク作りをしている。又、認知症実践者研修の実習を受け入れ情報交換し、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に入所面談をし、本人・家族へ要望を聞き、入所後も本人と話しをする機会を設け不安なく生活が送れるよう援助している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当ケアマネジャーが中心となり話し合う機会を設け、信頼関係を築き現状の問題を引き出し、受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった際、入所申し込みの他にも利用可能なサービスを紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活に必要な調理や掃除、菜園や花の世話等、職員と共にやり様々な行事を通じ、気持ちを共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員で出来ないことや必要時は、家族に連絡し依頼している。又、行事の参加に呼びかけ、一緒に過ごす機会をつくることで共に支えていく関係を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前一緒に利用していた隣接しているデイサービスの友人が面会に来たり、こちらからも出向き会話を楽しむ等、本人の望む場所や人との関係が継続できるよう支援している。	昨年からの感染症対策で外部との交流は制限があるが、利用者と一緒に馴染みの場所にドライブに行くなど支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の状況を観察し、利用者同士の関係を把握している。会話を楽しめるよう場面を設定したり、作業を利用者同士支え合いながら楽しめるよう勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、必要時には連絡を取り合い、利用者・家族が安心して暮らせるよう別のサービス利用に繋げることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、本人の思いや意向の把握に努め、希望に沿うようにしている。困難な際は家族と相談し検討している。	本人の意向は言葉や表情で随時確認し、本人本位の時間の過ごし方や生活ができるように対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族や担当ケアマネジャーから情報を収集したり、本人とコミュニケーションを図りながら生活歴等、聞き取りしている。必要に応じて家族からも聞き取りしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	援助目標に沿い、諸作業やリハビリ等を行い過ごしている。心身状態を把握し変化や気付いた点はケア会議を行い職員同士で情報を共有し、どのように進めるか検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を把握し、ケア会議内で意見を出し合った上で、介護計画を作成している。	アセスメントはセンター方式を使用し、サービス担当者会議を行い、課題整理総括表を活用した計画作成後は、毎月モニタリングを実施しており、6ヶ月毎に評価し記録に残して経過が分かるようにしている。目標はその人らしい内容で作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケース記録・業務日誌・送り帳に記録し情報を共有している。 月1回モニタリングと評価で次のケアに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況やニーズを把握し、利用者・家族と話し合いを設け、希望に沿うように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	面接時や入居後も状況把握に努める。地域と協力体制をとり支えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に本人・家族の希望を聞き、かかりつけ医を決めている。又、看護師がかかりつけ医との連携をとり適切な医療を受けられるよう支援している。	入居時に主治医について家族と相談し希望に沿って対応している。新たに専門医を受診する際は家族に相談することもあるが、最近では感染症対策で職員の支援で受診している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は朝・夕のミーティングに参加し状況を報告している。又、体調不良等の変化が見られた際は、随時報告し適切な対応ができる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供を行う。病院関係者と連絡をとり現状について把握し、家族・病院等と連携し早期に退院できるよう行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は医師の意見を伺いながら家族と何度も話し合いを設けて方針を決めていく。	入居時に重度化した場合について説明している。法人内に特別養護老人ホームがあり、重度化した場合は住み替えの支援を行っていることから、これまで看取りを行ったことはない。法人内であり、事業所間の連携も問題なく行えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルや講習を受けている。又、看護師から応急対応や器具の使用法等の勉強会を実施し身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	朝礼時に消火器・ハンドマイク・消火栓を使って模擬訓練を実施している。年1回は地域消防団の参加もあり協力体制をとっている。	今年度は感染症対策で地区の消防団の参加がなかったが、年に2回日中・夜間想定で避難訓練を実施している。有事に備えて避難経路の確保のために雪かきも欠かさずに行っており、災害時マニュアルを作成中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々、個人を尊重した言葉かけや対応に気をつけて支援している。	職員は声かけする前に、利用者の表情や状況を確認してから、その場の状況に合わせて口調や語尾に気をつけて声かけしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の理解度に合わせた声掛けをし、自分の意志を表現できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理のないよう、その日の体調を考慮し、ゆとりを持った生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各自、身だしなみには気を付けている。 又、個々の意見を尊重しながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週木曜日の夕食は、3種類のメニューの中から選択して食べれるようにしている。 又、毎食時の準備や片付けは一緒にコミュニケーションを取りながら行っている。	職員が調理した食事を提供している。月1回、レストランを事業所で行い、日頃のメニューにない鍋、ピザ、刺身等を職員も一緒に楽しく食事している。 野菜の下処理や芋の皮むきなど担当する利用者がいて調理も楽しい時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が献立を作成している。 個々に合わせた調理で提供し、食べれない物には代替えを出している。水分は午前と午後にお茶の時間を設け確保すると共に随時、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの能力に応じ声掛け・誘導し必要な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンと本人の行動を観察し声掛け・誘導を行い失禁が少なくなるよう支援している。	チェック表を活用した排泄支援でオムツの外れた方もいる。便秘の方には排便コントロールを行い、苦痛のないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、食物繊維品や乳製品提供している。又、運動する機会を作り、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	隣接のデイサービスの大浴場で、ゆっくり楽しく入浴できるよう配慮している。週2回の入浴と足浴を実施しているが希望時は随時入浴できるよう支援している。	広い浴場で入浴できるのでお風呂の好きな利用者に喜ばれている。入浴を拒否された場合は時間をおいて誘ってみたり、職員が交替で声かけするなど対応している。入浴日以外は足浴を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況記録し、日中の活動に参加していただき生活リズムを整えている。又、不安がないよう傾聴に努め安心して休息していただけるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供文書を参考に誤薬のないように看護師が仕分けし、確実に服薬できるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し、本人の趣味や能力を活かせるよう一人ひとり役割や意欲を持って行っている。又、ドライブ・買い物・行事等気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望の際は希望に添えるよう努めている。又、、職員だけで対応できない時は家族へ協力依頼し支援している。	感染症対策でこれまで一緒に外出していた買い物は代行で行っている。天気の良い日はドライブに行き車中から外の景色を眺め、楽しく気分転換している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の金銭能力にあわせた支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には家族や友人に電話をつないでいる。又、希望時必要時に応じて代筆している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間にはソファと丸テーブルを置き利用者が自由に会話できるよう配慮している。趣味活動は音楽を流しリラックスできるように工夫している。又、写真を飾ったり季節感のある展示物にしている。	陽当たりの良いホールの中央には、利用者と職員と一緒に食事やお茶を楽しめるように大きな円卓が置かれている。壁には利用者中心で作成された「貼り絵」が一面に飾られている。大きなソファに座り、ゆったりとくつろげる環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファが多くあり、利用者が安心してくつろげる場所がある。又、渡り廊下にソファがあり、ゆっくり菜園を眺めたり一人で過ごせる空間にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものを持参したり、入居後も自分の写真や作成した物を置くなど自分仕様の空間にしている。	各居室には洗面台、トイレ、クローゼット、ベッドが設置されている。自宅から持ち込んだタンスや家電等が置かれて、家族の写真が飾られており、その人に合わせた空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりが設置されており、各所室内には設置され安全面に考慮し整備されている。		